

金融技術開発

当行は、新しい金融技術開発と、高付加価値の金融商品の提供をリードする為、興銀第一フィナンシャルテクノロジー(株)を設立致しました。

興銀第一フィナンシャルテクノロジー(株)

ビッグバンを金融革新のチャンスと捉えて

興銀第一フィナンシャルテクノロジー(株)通称IBJ-DL FT)は、日本版ビッグバンの背景にある金融の高度化・複雑化・情報化をビジネスチャンスと捉え、先端金融技術・情報技術の金融への応用研究・開発等を目的とする専門会社として、昨年4月に当行100%出資により設立され、第一生命保険(相)との全面業務提携を受けて、本年4月には当行と第一生命保険(相)との合併会社となりました。

金融、証券、投資運用に保険、年金分野も加え、金融に関する総合的な技術並びにこれらへの先端情報技術の適用に関する業務を対象として、信用リスク管理、市場リスク管理、統合リスク管理、金利・通貨・株式・コモディティー等の各種デリバティブズ、更にはインベストメント・テクノロジー、ストラクチャード・ファイナンス等にまたがる領域を手掛けております。

「IBJ-DL FT」による多面的なアプローチ 信用リスクの場合

金融技術の専門家集団IBJ-DL FTは、「ビッグバン」により「金融」そのものが極めて多面的かつ高度な展開を見せている中、専門家が自らの殻に閉じこもらず、お互いの領域を越えて横断的に協力し合うことにより生じる「シナジー効果(共鳴作用)」を大切にしております。

例えば、信用リスクに係わる問題は、当行資産のリスク管理の要諦であることは勿論、証券投資戦略におきましても重要な意味を持っております。ある社債の価格が信用リスクを正しく反映していない場合、理論的には裁定取引により収益を



得ることができます。信用リスクを重要な要素とするストラクチャード・ファイナンスを創出したり、また、「信用リスク」をデリバティブズとして売買することも可能です。

更に、信用リスクの評価・管理には最先端の情報処理システムが必要です。興銀グループは、(株)NTTデータとの共同プロジェクトにより信用リスク管理システムを開発し、既に地方銀行58行が導入を決定致しました。このように、当社は金融技術を多面的に活用することで、複雑な課題に対する効率的な問題解決に実力を発揮しております。

高度な専門家集団であり続ける為に

為替や金利、株式等市場の変動率が高まり、種々のデリバティブズが登場する中で、企業にとって市場リスクに如何に備えるか、その重要性は増大する一方ですが、最近では、商品価格変動に加えて天候、地震等のリスクに対して如何に備えるか、というご相談も数多く寄せられており、具体的な対処スキームをご用意しております。

このほかにも、統合的な金利モデルや高速数値計算技術の高度化推進、グローバルな資金管理や資産配分の為のモデル開発、統合財務サポートシステムの開発、インターネット関連金融ビジネスの展開等、当社の取り組み対象はIT(先端情報技術)の分野と深い係わりを有しております。

昨年秋には、金融工学の権威である刈屋武昭氏(元一橋大学教授)が当社理事として参画し、専門性に一層の磨きをかけております。当社は、先端金融技術の基盤を担う会社として興銀・第一生命保険(相)グループの関連分野のノウハウを結集し、金融技術に係わる研究・開発機能の一層の深化に向けて尽力して参りたいと考えております。

興銀第一フィナンシャルテクノロジー(株)の研究・開発体制

部 名	担当分野
金融工学第一部	信用リスク管理、市場リスク管理に係わる金融技術の開発
金融工学第二部	金利デリバティブズに係わる技術開発及び関連解析・計算・システム技術開発
金融工学第三部	通貨・商品・エクイティ・その他(天候・地震)デリバティブズ等に係わる技術開発
投資技術開発部	株式・債券等の投資運用技術の開発
金融保険工学部	年金・保険に係わる金融技術及び投資運用技術の開発
業務企画部	ストラクチャード・ファイナンス及び情報関連技術の開発
社長室	地球温暖化問題(排出権取引等)金融技術関連教育ソフト等